

Ⅲ インタビュー調査の結果 (ケース1～ケース24)

凡 例

1. 以下の記録は、インタビュー調査（本報告書 I 3 参照）の結果のうち、東日本大震災および福島第一原子力発電所事故の被災者・被害者の法律問題経験および法的ニーズの重要な特徴を示すと考えられる部分を抜粋した形で編集したものである。インタビュー対象者の発言として抜粋された部分は、原則として、対象者が用いた表現をそのまま記載している。
2. 各ケース冒頭の「ケースの概要」は、インタビューで得られた情報に基づき、調査担当者がまとめたものである。匿名化の配慮のため、「ケースの概要」の内容は、その後続く発言部分の背景・文脈を理解するために最低限必要な事項に限った。
3. 各項目の見出しおよび説明文は、抜粋の意図を明確にする趣旨で、調査担当者が付したものである。
4. 以下で用いられる記号・略語の意味は以下のとおりである。

○	質問者（インタビュアー、調査担当者）
A	インタビュー対象者。同席した家族がいる場合は、インタビューの主たる対象者（アンケート調査の回答者）をA ₁ とし、以下、同席の家族をA ₂ 、A ₃ …とした。
B～C	インタビューで言及されている個人名、会社名、組織名
X	インタビュー対象者が震災発生時に居住していた市町
K	県庁がある市
Y、Z	インタビューで言及されている市町村以上の単位の地名でX・K以外の地名。なお、Y、Zで足りない場合は、適宜U、V、Wを使用。
α～ε	インタビューで言及されている地名で市町村より小さい単位（地区・集落等）の地名。（例）X町α地区
…	文中の一部の省略
（中略）	一文以上の省略
「アンケート調査」	本インタビュー調査の前提となる「東日本大震災の被災者等の法的支援

Ⅲ インタビュー調査の結果

に関するニーズ調査（アンケート調査）」（本報告書 I 2 参照）。

5. 匿名化の配慮のため、固有名詞は、東京電力株式会社を除き、上記4の方針に従いすべて記号化した。場所も記号化し、時間についても年月までは示すが、地震発生日（2011年3月11日）およびその直後数日を除いては、日付は示さないこととした。
6. 発言の抜粋部分（四角の枠で囲まれた部分）において、発言者はゴシックで示し、発言中の引用と理解される部分は「 」で囲んで示した。発言の抜粋部分における〔 〕は、記録作成に際して調査担当者が付した補足説明である。